

# 第3学年 道徳学習指導案

日時 令和3年11月5日(金)

場所 3年 組教室

授業者

- 1 主題名 寄りそう中で
- 2 資料名 加山さんの願い
- 3 主題構成表

<p><b>■内容項目</b> C- (12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。</p>	<p><b>■内容項目から見た生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・仲間と協力して一つの目標を成し遂げ、それに連帯感や達成感を味わうことができた生徒が多い。お互いの思いや願いを尊重しながら生活していくことの大切さを実感することができている。</li><li>・地域との関わりは増えてきており、日常的に挨拶をすることの大切さや人との関わりを大切にしようとする心情をもてるようになってきている。しかし、地域社会にとって自分がどう関わっているか、どう社会参画するとよいかということに思いは至っていない。</li><li>・地域資源回収や、学校の生徒会が中心となって活動しているアルミ缶回収や切手回収に参加できている。</li></ul> <p><b>■要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「スポーツの集い」において、人の思いを考えたり応えたりすることの大切さを学んだ。</li><li>・ボランティア活動は大切であると感じてはいるが、大人がリードしていく意識が強い。</li></ul>	<p><b>■資料の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域のご老人のために「何かをしてあげたい」と感じる加山さんが中井さんと関わる中で「してあげる」のではなく、地域の一員として共に支え合うことが大切だと気付く資料である。</li><li>・加山さんは、ボランティアは「してあげること」と捉えて活動に取り組んでいる。何かをしてもらうことが嫌いな中井さんに断られ、腹を立てる加山さんの心情に共感させつつ、地域と共に支え合って生きていくことが大切であることに気付かせたい。</li><li>・これまでの自分たちのボランティア活動にどのような考えで取り組んでいたか振り返らせたい。また、地域社会における自分たちのボランティア活動は地域の活性化や施設を充実させるだけでなく、地域と自分とのつながりを作り出すものであることや、互いに助け合うことが重要であることに気付かせたい。</li></ul>
--	--	---

**■ねらい**  
主人公のボランティア活動をきっかけに社会連帯の必要性に気づき、地域社会の一員としてよりよい社会を築こうとする意欲を育てる。

**■展開の構想**

- ・これまで自分が行ったことがあるボランティア活動を問い、自分の活動を振り返る。
- ・中井さんに腹を立てる気持ちを考えさせることで、ボランティアを「してあげている」という主人公の気持ちに共感させる。
- ・ボランティア活動はお互いに支え合うことが必要であることに気づき、地域において進んで関わりを持つようとする意欲を高める。
- ・地域でボランティアを行っている方のお話を聞き、地域とのつながりによって、互いを守ることができることを知り、ボランティアや日々のつながりが防災にも関わることに気付く。
- ・授業を通して意識の変化を確認し、普段の生活で大切にしたいことをまとめる。

**■基本発問 (◎中心発問)**

- これまでどんなボランティア活動に取り組んできたか。
- すずすと帰る加山さんはどんな思いだったろう。
- 加山さんの肩の力みが抜けて楽になったのはなぜだろう。
- ◎資料を読んで、地域社会の一員として支え合って生きるために大切なことは何だろう。
- 地域社会で自分が役に立てることはどんなことだろう。

#### 4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

##### ■ふるさと大垣科

「地域防災」

- ・「助けられる中学生から助ける中学生に」という視点で、HUG や DIG の学習を通して避難所の開設や運営の仕方を学び、社会連携や社会参画の仕方を理解する。

##### ■地域奉仕活動

「資源回収・地域防災訓練や清掃活動・一家庭一ボランティア」

- ・地域の方とのふれあいを通して、その温かみを感じるとともに、地域に貢献できる自分を自覚することができるようにする。

##### ■道徳の時間

「加山さんの願い」

内容項目 C- (12)

- ・主人公のボランティア活動に対する心情の変化について話し合うことを通して、自分の地域に対する関わり方を見つめ、よりよい社会を築こうとする意欲を育てる。

##### ■総合的な学習

「防災力の高い街づくり」

- ・地域の特性を知り、防災のために自分ができることを考える。また、防災の「共助」の面でも中学生である自分たちの力で地域の被害を抑えられることを知る。

##### ■日常生活

<挨拶>

- ・学校での挨拶の活性化が地域でも生き、地域の方々にも進んであいさつをすることで、関わりを強くすることができる。

<ボランティア活動>

- ・資源回収や切手回収を通して、自分たちの行っているボランティア活動が地域の役に立っていることを自覚する。また、自分にできる簡単なことで助かっている人がいる事実を知ることができる。

<MSJリーダーズ>

- ・MSJリーダーズの取組を通して、マナー改善や事故防止などを呼びかけることで、地域とのつながりを生むことができる。

##### ■教科

<社会科の学習>

- ・公民の学習を通して、よりよい社会を作っていくのは自治体の力だけでなく、自分たちの社会活動の参加も重要な要素であることに気付く。

<生徒の意識>

- ・実際に起きた災害を見ると、助けられるだけでなく、自分で備えなければいけないという意識が生まれる。

- ・資源回収は自分たちの学校生活や地域の生活をよくするための活動だから頑張りたい。
- ・自分たちの活動が具体的にどんな役に立っているか知りたい。

- ・ボランティアの活動が、地域の支えになっていることが分かった。様々なボランティアに取り組みたい。
- ・これから、ボランティア活動以外にも地域との関わりをもてるようにしたい。

- ・防災は個人の意識だけではなく、積極的な社会連携が必要。中学生の自分たちができることをして、支え合って災害を乗り越えなくてはならない。

<指導・援助>

- ・災害について知り、特に自分の住む地区での浸水の被害や、避難の仕方、避難所の運営の仕方についてまとめる。
- ・避難所までのルートを確認し、家族や地域の中に1人で移動できない人を確認する。

- ・資源回収を通して、地域、学校の活動や生活を豊かにする事実を伝える。
- ・資源回収で地域の人と関わりを持つことで感じたことなどを生活の記録にまとめる。

- ・地域の人との関わりにより、ボランティアは互いの助け合いが必要であると気付く主人公に共感することで、地域へのよりよい関わり方を考えられるようにする。

- ・災害を乗り越えるための街の設備だけでなく、地域との支え合いの視点から互いを守り合うために必要なことを考えられるようにする。

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼应

## 5. 本時の展開

<p style="text-align: center;">導入</p>	<p>1. 価値に関わる自分の行動や考えを振り返る。 ○これまでどんなボランティア活動に取り組んできたか。 ・地域資源回収→地域や家庭の手伝いの感覚で参加した。 ・生徒会主体のアルミ缶回収や切手回収→生徒会の取り組みに自分も応えたい。 ・大垣祭クリーン作戦→祭り会場をきれいにしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに対する学級の意識を確認し、自分の取り組み方を振り返えさせる。</li> <li>・どんな思いで取り組んできたかを問うアンケートの結果を提示する。(タブレット使用)</li> <li>・学校や地域、家庭が中心となっている視点を与える。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">展開前段</p>	<p>2. 資料「加山さんの願い」を読んで話し合う。</p> <p>○すごすごと帰る加山さんはどんな思いだったのだろうか。 ・なんであんなに怒っているのだろうか。 ・わざわざ訪ねてやっているのに、ひどい言い方だ。腹が立つ。 ・せっかく身の回りの世話をしあげようというのに、あんな言い方はないだろう。 ・善意でやっているのに感謝されないのはむなしい。</p> <p>○加山さんの肩の力みが抜けて楽になったのはなぜだろう。 ・感謝されて嬉しかった。 ・たくさん話して、中井さんのことが分かってきた。 ・中井さんと友達のようになれて嬉しかった。 ・してあげることより、相手を思うことが大切であることに気付けた。</p> <p>◎資料を読んで、加山さんが地域社会で生きる一員として、互いに支え合っていくために大切なことはなんだろう。 ・相手を大切にすること。 ・自分の思いだけでなく、相手を尊重して関わり合うこと。 ・相手の立場に立って考えた『つもり』ではなく、『真に』相手の身になって考える」ことが大切。 ・今までボランティア活動の本当の意味を間違っていたのかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中井さんに厳しく言われて帰る加山さんの心情について考えさせる。</li> <li>・中井さんにどういう思いで接していたかを問いかけることで、何かをしてあげたいという意識が働いていたことに気付かせる。</li> <li>・加山さんのボランティアに対する意識が自分本位なものであることに気付かせる。</li> <li>・義務感や押しつけではなく、相手の気持ちを捉えられるようになった加山さんの心情の変化を捉えさせる。</li> <li>・地域住民の1人としての素直な関わりをもつことで、相手の立場に立って考えるようになった加山さんの変化に気付かせる。</li> <li>・ボランティアなどを通して作られるつながりが、地域社会において助け合う関係を築くことにつながることに気付かせる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">展開後段</p>	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>・地域でボランティアを行っている方のお話を聞き、地域社会で自分たちが役に立つためにはどうするとよいか考える。(ゲストティーチャーの話聞く。)</p> <p>・災害が起こった時だけではなく、日常生活から学校の仲間や地域の人との関わりを深めていきたい。 ・ボランティアを受ける人と同じ目線で接することが大切だ。 ・「助けられる中学生」から「助ける中学生」になるために、これからももっと進んで地域と関わっていききたい。 ・私たちの町にもこうやって誰かのために動いている人たちがたくさんいたんだ。自分もその一員になって社会参画していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でボランティアを行っている方に、「地域防災」「見守り隊」など活動から感じる社会連帯のあり方についての視点で話をさせていただく。</li> <li>・これからの生活で、地域との関わりで大切にしたいことをワークシートに記入させる。</li> <li>・ボランティア活動の本当の意味についても考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価の視点】</b></p> <p>ボランティア活動をする人は、受ける人と同じ目線で接することが大切であることに気づき、社会の一員としての役割や責任を果たすために、今後のボランティア活動や地域の活動に積極的に参加していきたいと考えている。</p> </div>
<p style="text-align: center;">終末</p>	<p>4. 東日本大震災で、中学生が地域の防災のために動いた記事を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりがあったからこそ、自分だけでなく地域を守ることに気づき、普段何気なく行うボランティア活動がそのきっかけになることをおさえる。</li> </ul>

